

ニュースリリース

丸藤シートパイル株式会社

長支間切梁架設時における「たわみ量の抑制技術」特許出願の件

丸藤シートパイル株式会社(社長:志村孝一)は、山留め支保工等の切梁架設時に課題となる切梁自重による「たわみ量の抑制技術」を完成させ、このほど特許を出願しました。

一般的な山留め支保工の切梁配置では、根切り工事などの作業空間をより広く確保するため、同一空間に火打ち梁等を介さないシンプルな構造が求められます。近年、ヨーロッパ諸国では切梁を保持する支柱を減らすため長支間の切梁スパンを可能にする山留製品が常用化されており、日本の国内市場においても採用が進みつつあります。一方、スパンが長支間になるに従い、切梁は自重によって下方方向へのたわみが大きくなり、性能の低下を引き起こす要因となります。

当社ではこの課題を解決するため独自の研究開発を進めてきました。各種切梁モデルでのシミュレーションによる「たわみ量」の予測・解析と併せて、実物大架設による実証実験を重ねた結果、切梁の架設時に新たに開発された「プレ・キャムバー」を施すことで、切梁の自重による「たわみ量」を抑制する手法を考案しました。(図1.参照)

この手法により長支間切梁において「たわみ量」の発生を抑制、山留め壁を支える効果を保つことが可能となり、山留め構造の安定性・安全性が大きく向上します。

当社では、この技術を広くPRし、ユーザーである元請けゼネコンだけでなく、官公庁や自治体などの発注者にも安心して活用いただける実用的な長支間山留め技術を提供してまいります。



図1.長支間切梁架設時変位の概略図

問合せ先

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町1丁目6番5号

丸藤シートパイル(株) 技術開発部 福原

TEL:03-3242-7764

FAX:03-3242-9631